

第6期音更町総合計画
地域別まちづくり方針(案)

内容

1	音更地域 ～ 行政や工業団地、良好な居住環境など複合的な機能を有した地域	～	1
2	木野地域 ～ 商業集積と医療環境が整う、都市としての利便性が高い地域	～	2
3	宝来地域 ～ 自然環境に恵まれた閑静で新しい住宅街が広がる地域	～	4
4	駒場地域 ～ 農村地帯にある自然に囲まれたのどかな生活環境がある地域	～	5
5	十勝川温泉地域 ～ 温泉地として様々な観光資源を有する地域	～	6
6	農村地域 ～ 基幹産業である農業を支える地域	～	7

地域別まちづくり方針

地域別まちづくり方針は、町内全ての地域に共通するまちづくりの全体を示した基本構想と基本計画を踏まえ、本町を市街地域である音更、木野、宝来、駒場、十勝川温泉と農村地域の6つに区分し、それぞれの特徴や課題を整理して、地域の実情を踏まえたまちづくりの基本的な方向性を示すものです。

全ての施策は、基本計画、実施計画に基づき全町的に実施されますが、地域の状況に応じた対応が必要な施策の分野には、買物、医療、交通などがあります。それぞれの地域特性を踏まえ、各々の特長を生かしたまちづくりを進めていきます。

1 音更地域

～ 行政や工業団地、良好な居住環境など複合的な機能を有した地域 ～

音更地域は、役場をはじめ各種公共施設が整備され、行政機能が集積しています。また、高等教育機関として帯広大谷短期大学があります。役場周辺では河岸段丘の自然環境がまちに溶け込み、防風林や音更川など周囲の自然環境にも恵まれています。自然と調和した住環境のほか、工業団地もあり、複合的な機能を有した地域です。

人口の動態

音更地域の人口は7,689人です。本地域の人口はこの10年間（2015〔平成27〕年比）で減少しています。

年少人口（0～14歳）の割合は11.3%、生産年齢人口（15～64歳）の割合は52.7%、老年人口（65歳～）の割合は36.0%となっています。

年少人口の割合は町全体（11.4%）とほぼ同じで、老年人口の割合が町全体（30.6%）より高くなっています。

資料：住民基本台帳（2025〔令和7〕年3月末時点、外国人を含む）

地域の現況

○第6期総合計画の前期5年間においては、2023（令和5）年度に、生涯学習センター内にある郷土資料室を音更ふるさと資料館としてリニューアルしたほか、2024（令和6）年度には、子ども家庭総合支援拠点と子育て世代包括支援センターを統合して、こども家庭センターを保健センターに開設するとともに、児童生徒、教職員の熱中症対策として、音更小学校及び音更中学校にエアコンを整備しています。

○2000（平成12）年に分譲を開始したIC工業団地は、2024（令和6）年度末現在、36社の企業が立地して分譲率が9割を超えています。

○新たな工業用地の確保のため、町、土地開発公社、民間事業者による官民連携で、新工業団地の造成に向けた共同開発事業を進めています。

○2022（令和4）年度に移転オープンした道の駅おとふけ「なつぞらのふる里」は、農畜産物や特産品の

ほか、文化、風景など、十勝や音更の魅力を多くの人に伝えるとともに、町内外の様々な人たちの交流促進を図っており、2025（令和7）年3月には、累計来場者数400万人を突破しました。

○道の駅おとふけに隣接するなつぞら公園には、バスの乗降場所のほか、バス利用者用の待合所や駐車場を整備しており、道内の主要な都市や空港と十勝圏を結ぶ都市間高速バス等が運行するなど、交通結節点（パークアンドライド）としての機能を果たし、十勝の玄関口としての役割も担っています。

○2025（令和7）年度からは、手狭となり老朽化が進んでいる「ひまわりの家学童保育所」の改築に着手しています。

○大型店との競合、経営者の高齢化や後継者不足などにより、商店等の置かれる状況は厳しさを増しており、2021（令和3）年度に制定した音更町中小企業・小規模企業振興基本条例等に基づき、事業承継支援や生産性向上などの取組を進めています。

○2027（令和9）年8月に、旧ホクレン十勝地区家畜市場などを会場に、第13回全国和牛能力共進会北海道大会が開催され、全国から約38万人の来場者が予想されるなど、地域が一丸となってまちの魅力をPRするための取組などに着手しています。

まちづくりの基本的方向

全体にバランスの取れた落ち着いた居住環境のある地域として、空き家対策や土地の有効利用などにより市街地の活性化を図るとともに、自然に恵まれ多くの公共施設が整備された環境を生かし、住環境と自然が調和した子どもから高齢者まで安全・安心に暮らせる住み良いまちづくりを進めていきます。

また、工業団地については、新たな工業用地確保の取組を進めるほか、道の駅おとふけについては、更なる機能強化を進めるとともに、第13回全国和牛能力共進会北海道大会などを通じた関係人口の創出・拡大等に向けた取組を進めます。

2 木野地域

～ 商業集積と医療環境が整う、都市としての利便性が高い地域 ～

木野地域には、国道241号沿いにショッピングセンターや飲食店などが多数立地しており、買物や飲食などの場として町外からも多くの人を訪れる利便性の高い地区を形成しています。その他はおおむね住宅地で、宅地造成により広がってきた地域でもあります。東に音更川、南に十勝川の河川緑地が広がり、図書館、文化センターといった文教施設や鈴蘭公園、むつみアメニティパークなどのほか、医療環境も整っていることに加え、河岸段丘があるなど自然環境にも恵まれている地域です。

人口の動態

木野地域の人口は23,142人です。本地域の人口はこの10年間（2015〔平成27〕年比）で減少しています。本町で最も人口が多く、総人口の半分以上を占めています。

年少人口（0～14歳）の割合は11.7%、生産年齢人口（15～64歳）の割合は58.6%、老年人口（65歳～）の割合は29.7%となっています。

年少人口の割合は町全体（11.4%）とほぼ同じで、老年人口の割合が町全体（30.6%）より若干低くな

っています。

資料：住民基本台帳（2025〔令和7〕年3月末時点、外国人を含む）

地域の現況

- 第6期総合計画の前期5年間においては、2024（令和6）年度に下音更学童保育所を改築するとともに、児童生徒、教職員の熱中症対策として、下音更小学校や下音更中学校などにエアコンを整備したほか、2024（令和6）年度から2025（令和7）年度にかけて、防災の拠点である消防防災庁舎の改修工事を実施しています。
- 町民の憩いの場である公園については、老朽度に応じて必要な改修を行うほか、トイレの改修を行うなど、子どもから大人まで、より快適に利用できる環境の整備に努めています。
- 本町で最も人口が集中する地域で、開発時期が異なるいくつかの地区（緑陽台、柳町、共栄、鈴蘭、下音更）を内包しています。空き家を活用した地域交流サロンの発足により、コミュニティの活性化が図られている地区がある一方で、町内会の加入率の減少などによりコミュニティ活動に影響が出てきている地区もあり、各々の特性に配慮したまちづくりが必要です。
- 未利用の町有地や公営住宅の跡地等を有効活用し、民間事業者による宅地造成を進めるなど、子育て世代等の住宅ニーズに対応するための宅地開発等を進めています。
- 国道241号の木野市街地区間は、年間を通して交通量が著しく多いことから、交通事故が多発するほか、慢性的な渋滞が発生しています。2017（平成29）年度から国による交通事故対策事業及び防災対策として無電柱化事業が着手され、着実に改善が進められておりますが、工事の早期完成が望まれるほか、対象区間の延伸が求められています。

まちづくりの基本的方向

木野地域は、買物や医療環境が整う、町民アンケートにおける満足度が高い地域です。商業施設などが集積した利便性の高い地域として、景観の形成などにも配慮しつつ、国道241号沿いの交通安全や交通混雑の解消のほか、地区の実情に応じたコミュニティの活性化や未利用地の有効活用などに取り組み、都市機能を維持するとともに、それぞれの地区にある資源や特長を生かし、観光資源として活用することで交流人口の拡大を図るなど、多様なまちづくりを進めていきます。

3 宝来地域

～ 自然環境に恵まれた閑静で新しい住宅街が広がる地域 ～

宝来地域は、土地区画整理事業などで宅地開発が進められた地域です。比較的新しい住宅地として発展してきたため子育て世帯が多く、音更川と十勝川の河川や河岸段丘に囲まれ、自然環境にも恵まれています。隣接する木野地域の商業ゾーンとは音更川に架かる3本の橋（十勝新橋、宝来大橋、翠柳大橋）で結ばれています。

人口の動態

宝来地域の人口は6,778人です。本地域の人口はこの10年間（2015〔平成27〕年比）で微減しています。

年少人口（0～14歳）の割合は12.4%、生産年齢人口（15～64歳）の割合は66.3%、老年人口（65歳～）の割合は21.3%となっています。

年少人口の割合は町全体（11.4%）より若干高く、老年人口の割合が町全体（30.6%）よりかなり低くなっています。

資料：住民基本台帳（2025〔令和7〕年3月末時点、外国人を含む）

地域の現況

- 第6期総合計画の前期5年間においては、2024（令和6）年度に、生徒、教職員の熱中症対策として、緑南中学校にエアコンを整備しています。
- 本町における野菜の一大産地である宝来地区では、宅地化した後も、都市近郊型農業による施設野菜などの栽培が展開されており、新規就農者の育成・確保などを進めながら、野菜産地の維持に努めています。
- 2017（平成29）年度にひばりが丘緑地に整備されたサッカー場は、町内の少年団や部活動のほか、各種大会、プロサッカーチームの練習など、幅広く利用されており、スポーツ振興や健康増進、地域交流の促進などに大きく寄与しています。
- 地域の西側に音更川、南側に十勝川があり、河川に親しむ環境にありますが、台風や大雨の影響により水害が発生する地区があることから対策が求められており、国では、十勝川と音更川の河畔林伐採や河道掘削などを進めています。
- 地域東側の崖面は、2016（平成28）年度に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定され、2019（令和元）年度から、北海道において急傾斜地崩壊対策事業が行われており、工事の早期完成が求められています。
- 2023（令和5）年度に、宝来簡易郵便局が開局され、宝来地域の生活利便性の更なる向上が図られました。

まちづくりの基本的方向

閑静な住宅街と木野市街に隣接した利便性の高い地域という魅力を生かして、良好な生活環境の維持

に努めるとともに、河川の治水機能の向上などを図り、災害に強い地域づくりを目指します。

本町の中でも比較的新しい住宅地であり、子育て世帯が多い状況にあります。今後、高齢化が進むことが予想されることから、様々な世代の人にとって住みよい地域となるよう、安全で快適なまちづくりを進める必要があります。

4 駒場地域

～ 農村地帯にある自然に囲まれたのどかな生活環境がある地域 ～

駒場地域は、音更や木野の中心市街地から離れた農村地帯にある市街地です。家畜改良センター十勝牧場が隣接して豊かな自然に囲まれ、景観にも恵まれています。近くには音更高校があり、良好な子育て・教育環境がある地域です。

人口の動態

駒場地域の人口は1,065人です。本地域の人口はこの10年間（2015〔平成27〕年比）で減少しています。

年少人口（0～14歳）の割合は10.1%、生産年齢人口（15～64歳）の割合は54.4%、老年人口（65歳～）の割合は35.5%となっています。

年少人口の割合は町全体（11.4%）より若干低く、老年人口の割合が町全体（30.6%）より高くなっています。

資料：住民基本台帳（2025〔令和7〕年3月末時点、外国人を含む）

地域の現況

- 第6期総合計画の前期5年間においては、2024（令和6）年度に、児童生徒、教職員の熱中症対策として、駒場小学校及び駒場中学校にエアコンを整備しています。
- 町内唯一の高校である音更高校は、地域に根ざした特色ある授業を展開しながら地域を担う人材を輩出するとともに、町や地域と連携して生涯学習プログラムや地域活性化に寄与する活動を行っており、安定的な入学者数の確保に向けて、高等教育機関との連携等により教育機能の充実などを図りながら、更なる魅力向上につながる取組を進めています。
- 毎年の行事として夏まつりが開かれるなど、地域の結束が強く、小・中学校では町内の他校に先駆けていち早くコミュニティ・スクール※が導入され、保護者や地域の町民が学校運営に参画しています。
- 交通は、従来の路線バスに加え、2019（令和元）年度から本運行が開始された農村地域予約制乗合タクシーの利用も可能となり、利便性が向上しています。
- 身近なところで買物をすることが難しくなっておりますが、民間事業者による宅配や移動販売などが行われるなど、買物環境の改善につながる取組が進められています。
- 2023（令和5）年度から、駒場郵便局で住民票や印鑑証明書が取得できるようになるなど、生活利便性を向上させるための取組を進めています。

まちづくりの基本的方向

魅力的な自然や保育園から高校まである良好な教育環境など、生活・子育て環境の良さを生かし、地域の実情を踏まえて町民の買物など生活利便性にも配慮し、活力あるコミュニティの維持・向上に努めるとともに、誰もが安心して生活が送れるよう、安全で快適なまちづくりを進めます。

※コミュニティ・スクール：保護者や地域住民が学校運営に参画する「学校運営協議会」を置く学校。

5 十勝川温泉地域

～ 温泉地として様々な観光資源を有する地域 ～

十勝川温泉地域は、十勝を代表する観光地である十勝川温泉を中心とした市街地です。北海道遺産であるモール温泉をはじめ、道立十勝エコロジーパークなどの公園や十勝平野が広がる眺望、日高山脈を望む景観など、観光資源に恵まれています。

人口の動態

十勝川温泉地域の人口は 150 人です。本地域の人口はこの 10 年間（2015〔平成 27〕年比）で減少しています。

年少人口（0～14 歳）の割合は 2.7%、生産年齢人口（15～64 歳）の割合は 63.3%、老年人口（65 歳～）の割合は 34.0%となっています。

年少人口の割合は町全体（11.4%）よりかなり低く、老年人口の割合が町全体（30.6%）より高くなっています。

資料：住民基本台帳（2025〔令和 7〕年 3 月末時点、外国人を含む）

地域の現況

- 第 6 期総合計画の前期 5 年間に於いては、2022（令和 4）年度に、道の駅ガーデンSPA十勝川温泉でモール温泉を活用した犬の足湯付きドッグランの供用を開始したほか、2023（令和 5）年度には、温泉集中管理設備更新事業への支援を実施しています。
- 近隣自治体を含めた観光振興や物流の効率化などに向けて、2020（令和 2）年 10 月に、道東自動車道の音更帯広インターチェンジから池田インターチェンジ間における、新たな（仮称）長流枝スマートインターチェンジ※の事業化が決定され、整備が進められています。
- 十勝川温泉アクアパーク及び道立十勝エコロジーパークにおける河川占用について、2016（平成 28）年度と 2019（令和元）年度に、民間事業者などの営業活動が可能な都市・地域再生等利用区域として指定されたほか、観光区域内において、2018（平成 30）年度に、地域全体の観光振興に寄与する施設の立地に対応する「十勝川温泉観光開発計画」を策定しました。
- ワークショップ※を活用して、2018（平成 30）年度から、花時計の老朽化対策及びトイレの通年利用を目的に、十勝が丘公園の再整備事業に着手しています。
- 2018（平成 30）年度に、地域で働く子育て世代の支援を目的として、民間企業による企業主導型保育

園が開園しています。

- 多くの観光客が訪れるこの地域では、観光客の滞在や交通に配慮したまちづくりが進められています。また、「美人の湯」や道立十勝エコロジーパークといった公園、丘陵、十勝川、日高山脈を望む景観など、様々な観光資源に恵まれていることから、これらを維持・活用する取組が求められています。
- 音更町十勝川温泉観光協会は、2024（令和6）年度に、収益事業を行うことなどを目的に一般社団法人化しており、組織体制の強化を支援しながら、連携して各種取組を進めています。
- 民間事業者との連携による地域共創の取組により、新たな観光拠点施設として子ども向け屋内遊戯施設の整備を進めているほか、民間事業者により、モール温泉を活用したチーズや有機栽培・有機加工によるワインを製造する事業所やこれらを販売する店舗が整備されるなど、民間事業者と連携・協力しながら、温泉街としての魅力向上の取組を進めています。

※スマートインターチェンジ：高速道路の本線やサービスエリアなどから乗り降りができるように設置される、ETC（自動料金収受システム）専用インターチェンジ。

※ワークショップ：地域に関わる様々な立場の人が集まり、まちづくりという共通目的に向け課題や情報を共有し、みんなで自由に意見を出し合い、解決策や提案をまとめ上げていく場。

まちづくりの基本的方向

十勝川温泉地域は、観光地として多くのイベントを開催するとともに、市街地を中心とした再整備を行い集客を図っていますが、町民アンケートの結果では、本町の観光地としての魅力づくりについて「重要である」という認識が町民全体にあります。こうした町民の強い関心を踏まえ、交流人口の拡大を目指し、法人化した音更町十勝川温泉観光協会や十勝川温泉旅館協同組合などの関係団体とも十分に連携しながら、新たな観光拠点施設として子ども向け屋内遊戯施設の整備を進め、道の駅の利活用や新たなスマートインターチェンジの供用を視野に入れつつ、温泉街としての魅力向上を図るとともに、生活者にとっても住みやすいまちづくりを進めていきます。

また、滞在型・通年型観光の推進、受入れ環境の充実や持続可能な観光振興を推進するための新たな財源の確保を図ります。

6 農村地域

～ 基幹産業である農業を支える地域 ～

農村地域は、本町の基幹産業である農業を支える地域で、食料生産の場としてだけでなく、洪水や土砂崩れなどの自然災害を防ぐとともに、環境の保全や美しい農村景観の創出、自然の大切さや農業を学ぶ場を提供するなど、重要な役割を担っています。

人口の動態

農村地域の人口は3,669人です。本地域の人口はこの10年間（2015〔平成27〕年比）で減少しています。

年少人口（0～14歳）の割合は8.8%、生産年齢人口（15～64歳）の割合は51.4%、老年人口（65歳～）の割合は39.8%となっています。

年少人口の割合は町全体（11.4%）より低く、老年人口の割合が町全体（30.6%）よりかなり高くなっています。

資料：住民基本台帳（2025〔令和7〕年3月末時点、外国人を含む）

地域の現況

○第6期総合計画の前期5年間においては、国営かんがい排水事業の富秋・土幌川下流地区や道営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）の中土幌1地区・中土幌2地区の整備が完了するなど、農業基盤整備の推進が図られたほか、2024（令和6）年度に、児童、教職員の熱中症対策として、東土狩小学校などにエアコンを整備しています。

○道路網は、翠柳大橋の開通に伴う道道帯広浦幌線整備計画路線の整備が進んでいます。

○生活環境において、路線バスなどの公共交通はほとんどの地域で利用できませんでしたが、2019（令和元）年度から農村地域予約制乗合タクシーの本運行が開始され、公共交通網の空白地帯はなくなりました。

○生活と産業の基盤として、大型農作業機械の走行や車両の交差など支障となっている道路の整備が求められています。

○情報通信環境については、2022（令和4）年度から、高度無線環境整備推進事業を活用して民設民営方式で整備した光ファイバーによるサービスが提供され、高速情報通信ネットワーク環境が整ったことから、スマート農業※などの推進が図られています。

○コミュニティ施設である地域会館については、老朽化が進んでいるため、計画的に長寿命化工事を行っています。

○閉校した小学校（豊田、南中音更）について、校舎の有効活用が求められています。

○2019（令和元）年度に閉校となった昭和小学校は、「昭和商学校 Palette」として生まれ変わり、地域産業の活性化や人材の育成、起業等の支援、関係人口の創出などを行うビジネスの拠点として有効活用されています。

※スマート農業：ロボット技術やICT（情報通信技術）などの先端技術を活用し、超省力化や高品質生産などを可能にする新たな農業。

まちづくりの基本的方向

農村地域は、仕事と生活の場が一致した地域で、力強い農業経営と地域の町民が一体となったコミュニティ機能が強みです。生活環境の維持・向上を図るとともに、町の基幹産業を支える役割を担った地域として、農業後継者の育成・確保、生産性の向上による経営強化を図り、農村環境の持つ魅力を生かした多

面的機能を発揮させるための地域活動を支援し、農業の振興を基本に据えたまちづくりを進めていきます。

また、閉校した小学校の校舎などを有効活用することにより、地域の活性化等を図るための検討を進めるほか、「昭和商学校 Palette」の更なる機能強化を進めます。